

【草花の部屋】

カワラナデシコ

(ナデシコ科ナデシコ属 *Dianthus superbis* var. *longicalycinus*)

和名：カワラナデシコ(河原撫子)

別名：ナデシコ(撫子)、ヤマトナデシコ(大和撫子)

英名：Dianthus longicalycinus

ナデシコ目 多年草

原産地：日本、東南アジア

花言葉：大胆、可憐

花色：白、桃



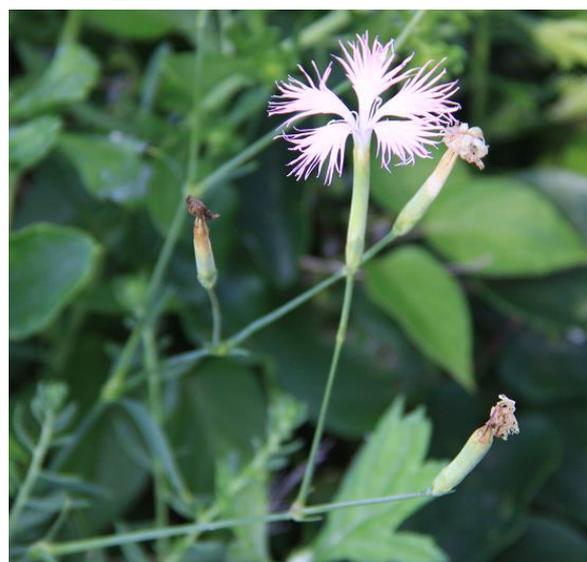
←↓ 写真-1、2 カワラナデシコ

撮影日：2019年08月02日

撮影場所：能登半島

ヤセの断崖にて

撮影者：M さん



能登半島西海岸、能登金剛にあるヤセの断崖に向かう遊歩道散策中に見かけました。主に日当たりの良い草原や河原に生育しますが、路傍や山地の斜面、海岸の砂浜等でも生育するそうです。

花卉が5枚で、先が細かく裂ける、淡い紅色や白い可憐な花を咲かせます。雄蕊は10本、雌蕊の花柱は2本。葉は線形ないし披針形で、向かい合って生え(対生)、葉のつけ根は茎を抱きます。

別名のヤマトナデシコ(大和撫子)は、カラナデシコ(唐撫子)とも呼ばれるセキチク(石竹)との対比でつけられた名だそうです。また、単にナデシコ(撫子)とも呼ばれます。

名前の由来は、「撫(な)でるようにかわいい花」ということからだそうです。また花期が夏から秋に渡ることから、古くは「常夏(トコナツ)」と言われていたそうです。

秋の七草の一つで、俳句の季語は秋です。分類上は、エゾカワラナデシコ(蝦夷河原撫子)の変種とされているようで、カワラナデシコは萼が長く、苞の数も多い特徴があるそうです。

<ちょっと一言>



← ヤセの断崖

撮影日：2019年08月02日

撮影者：M さん

石川県羽咋郡志賀町笹波にある断崖絶壁。能登金剛と呼ばれる複雑に入り組んだ海岸線や奇岩・奇勝の数々が見渡せます。松本清張の小説を原作とした映画『ゼロの焦点』の舞台としても知られています。近くには「義経の船隠し」もあります。